

#### 4. ベトナム臨床修練生に対する帰国後フォローアップ研修及び内視鏡セミナー

##### ① 臨床修練生 内視鏡実地指導

研修受講医師：アイン医師、ソン医師、タイン医師

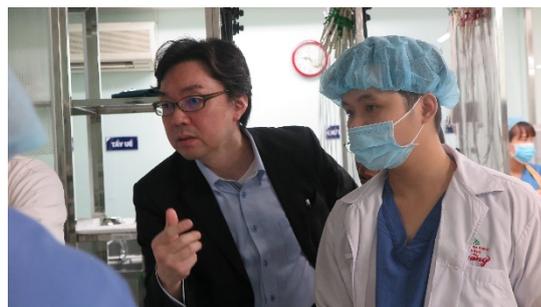
指導医：遠藤慎治（新松戸中央総合病院 副院長）

昨年来日した2名の医師に加え、若手の有望な医師についても実際の患者に施術しているところを見学し、指導を行った。遠藤副院長の評価としては、想像していたよりは検査できているとのことであったが、観察できていない範囲や観察時の注意やスコープの操作の仕方、写真を撮るポイントなど多くのことを指導してくださっていた。ホンゴック病院の医師たちも多くの質問をしており、現場での指導は大変有意義なものとなった様子であった。

ホンゴック病院では事前に日本の医師が診療をするための申請をしていた。そのため、ホンゴック病院の医師たちからの要望や患者からも強い依頼もあり、急遽2名の患者に対して遠藤副院長に内視鏡検査を実施していただくこととなった。解説をしながら検査をしていただき、その様子をホンゴックの医師たちは食い入るようにみて学んでいた。

現場での指導の後、アイン先生より日本で学んだことと現在取り組んでいることについてプレゼンがあった。アイン先生が発表した日本で学んだことは①がんのスクリーニングの仕方、②標準化された内視鏡の手順、③職種横断のチームワーク・職種間連携、というものであった。現在はホンゴック病院でそれらを実施できるように取り組んでいるとのことであった。

その後、ホンゴック病院の院長に遠藤副院長から今回のフォローアップと現状の評価について報告をしていただいた。その評価としては、もっと日本から学ぶことで更に成長するという評価であった。現在は内視鏡検査のみでESDなどの治療は行えていないが、多くの病変を経験することでESDも行うことができるようになるだろうという評価であった。また、洗浄機がないことや使用している薬剤に関する注意点なども伝え、医師の技術だけではなく、病院としての体制として必要なことも伝えていただいた。



## ② ベトナム 内視鏡セミナー

講演内容「日本での消化器病 内視鏡診断・治療の現状 ～がん診療を中心に～」

場所：ホンゴック病院4階 講堂

講師：新松戸中央総合病院 副院長 遠藤慎治

参加者：50名

時間：17:10～19:45

ホンゴック病院医師のほか、バクマイ病院、ビンメック病院などの大規模病院からも医師たちが集まり、聴講されていた。また、別の会場にWEBで繋ぎ、10名ほどが聴講されていた。

遠藤先生の講演内容は①日本人とベトナム人のがん疫学の比較、②消化器内視鏡検査・治療の実際、③その他の消化器疾患診療、という構成となっており、特に2番目の内視鏡検査・治療の実際については胃、食道、咽頭、大腸とそれぞれの動画を用意して下さり、わかりやすく説明されていた。日本のポリープの分類区分のスライドなどは、資料として紙で配布しているにもかかわらず、写真を撮っている聴講者もいた。講演後の質疑応答は40分ほど続くなど、予定時間を超えても続くほど多くの質問が出ていた。それぞれの質問に対し、遠藤先生も丁寧に回答していただいた。セミナー終了後も遠藤先生と一緒に写真を撮りたいという医師がくるほどであり、セミナーは本当に有意義だったといえる。

